

第 82 回国民体育大会・  
第 27 回全国障害者スポーツ大会  
長野県準備委員会

第 2 回広報・県民運動専門委員会  
書面協議資料



# 広報・県民運動専門委員会 委員名簿

(委員は順不同、敬称略)

職名	氏名	機関・団体名
委員長	森本 博行	公立大学法人長野県立大学 グローバルマネジメント学部長
副委員長	原 佳正	社会福祉法人長野県社会福祉協議会 事務局長
委員	二宮 徹	日本放送協会長野放送局 放送部長
〃	長岡 克彦	信越放送株式会社 情報センター長
〃	春原 晴久	株式会社長野放送 報道制作局長
〃	松岡 隆	株式会社テレビ信州 報道制作局長
〃	郡司 勝己	長野朝日放送株式会社 報道制作局長
〃	関谷 忠良	長野エフエム放送株式会社 編成制作部長
〃	小市 昭夫	信濃毎日新聞社 編集局長
〃	石川 幸夫	株式会社朝日新聞社長長野総局 総局長
〃	佐藤 浩	株式会社毎日新聞社長長野支局 支局長
〃	佐藤 淳	株式会社読売新聞社長長野支局 支局長
〃	松本 浩史	株式会社産業経済新聞社長長野支局 支局長
〃	石川 浩	株式会社中日新聞社長長野支局 支局長
〃	塚越 慎哉	株式会社日本経済新聞社長長野支局 支局長
〃	井上 徹	株式会社スポーツニッポン新聞社長長野支局 支局長
〃	縄岡 正英	株式会社日刊工業新聞社長長野支局 支局長
〃	宮坂 康弘	株式会社長野日報社長長野支社 支社長
〃	山鹿 秀一	一般社団法人共同通信社長長野支局 支局長
〃	岩下 浩明	株式会社時事通信社長長野支局 支局長
〃	新保 力	長野県新聞協会 会長
〃	浜 康司	一般社団法人長野県ケーブルテレビ協議会 事務局長
〃	小池 行範	一般社団法人日本コミュニティ放送協会信越地区協議会 副会長
〃	茅野 繁巳	公益財団法人長野県スポーツ協会 専務理事
〃	半田 直道	公益財団法人長野県障害者スポーツ協会 常務理事
〃	聲山 典生	一般社団法人長野県経営者協会 事務局長
〃	井出 康弘	長野県中小企業団体中央会 事務局長
〃	柄澤 洋子	一般社団法人長野県商工会議所連合会 事務局長
〃	寺澤 伸一	長野県商工会連合会 事務局長
〃	丸田 誠	長野県農業協同組合中央会 総務部長
〃	内田 孝雄	一般社団法人長野県観光機構 事業統括本部長
〃	宮坂 ケイ子	一般社団法人長野県連合婦人会 千曲市連合婦人会会長
〃	松下 隆志	一般財団法人長野県老人クラブ連合会 常務理事
〃	志川 真一	長野県小学校長会 幹事長
〃	山口 真一	長野県中学校長会 幹事長
〃	本多 健一	長野県高等学校長会 副会長
〃	洞沢 佳久	長野県特別支援学校校長会 副幹事長
〃	安藤 善二	長野県私立中学高等学校協会 副会長
〃	鈴木 秀規	長野市スポーツ課 課長
〃	堀 洋一	松本市スポーツ推進課 課長
〃	松澤 明彦	佐久穂町総合政策課 課長
〃	本島 憲	高森町総務課 課長
〃	須藤 彰人	小布施町企画政策課 課長
〃	池上 安雄	企画振興部 広報県民課 課長
〃	大槻 覚	観光部 観光誘客課 課長
〃	鏡味 照明	長野県体育センター 次長

計 46 名

# 審議事項

## 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 広 報 基 本 方 針 （案）

第 82 回国民体育大会及び第 27 回全国障害者スポーツ大会（以下「大会」という。）の広報活動については、「第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会開催基本方針」に基づき、信州人の心をつかむ広報活動を展開し、大会の開催意義を県内外に周知するとともに、開催に向けた気運の醸成と大会のイメージアップを図るため、次のとおり実施します。

- 1 県・市町村、関係機関・団体、企業、NPO、ボランティア団体との緊密な連携と協働のもと、「する」「みる」「ささえる」等、すべての人の生活の中にスポーツを根付かせる機会を創出し、「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現につなげるため、各種の広報媒体を計画的かつ効果的に活用し、大会の積極的な広報に努める。
- 2 報道機関との連携やSNSをはじめとした多様なメディアの活用により、誰でも大会に参加できる機会があることを発信するとともに、長野県の自然とともにある暮らしの良さ、歴史、文化、健康長寿の秘訣等、県民が誇れる多彩な魅力を積極的に全国に発信する。
- 3 大会を象徴し、県内外の人たちに広く愛されるような愛称やスローガン、マスコット等を制定し、その普及を図ることにより、大会開催に向けて気運を高める。
- 4 大会の記録映像、記録写真集等を制作し、その感動と興奮を永く記録にとどめ、大会開催までの道のりとその成果を長野県民の財産として未来へ継承する。

## 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 広報基本計画（案）

第 82 回国民体育大会及び第 27 回全国障害者スポーツ大会（以下「大会」という。）に向けて、「第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会広報基本方針」に基づき、次の広報活動を積極的かつ効果的に展開します。

### 1 活動の指針

- “ずく出してみるか！”と一歩踏み出して様々な形でスポーツや文化活動などに参加することを通じて、地元選手の活躍や大会の盛り上がりを感じ、夢、勇気、感動を共有することにより、豊かで活力ある地域社会の実現につなげる広報
- 自然と共存しながら暮らす、長野県独自の豊かなライフスタイルなど、多彩な魅力を再認識するとともに、信州に秘められた新たな魅力“新信州”を発見していく広報

### 2 実施主体とその役割

- (1) 県は、全県的な広報活動を行うとともに、広く県内外に向けて長野県や大会の魅力を発信する。
- (2) 市町村は、それぞれの市町村における地域の特性に応じた広報活動を行い、開催競技や地域の魅力を発信する。
- (3) 関係機関・団体、企業、NPO、ボランティア団体等の様々な主体は、それぞれの活動の中で、その特性に応じた広報活動を行うとともに、必要に応じて県及び市町村の広報活動に参加、協力する。

### 3 広報の手法

#### (1) 愛称・スローガン等による広報

大会に対するイメージアップと、大会への興味・関心を高めるため、大会を象徴する愛称・スローガン等を制定し、普及する。

- ア 愛称・スローガン等の制定及び普及
- イ マスコットキャラクターの制定及び普及
- ウ イメージソング等の制定及び普及

#### (2) 各種広報物品による広報

各種広報物品の作成や既存の広報誌等を活用した、積極的な広報活動を展開する。

- ア 大会広報誌の発行
- イ ポスター、パンフレット、リーフレット等の作成
- ウ 広報グッズ、各種ガイドブックの作成
- エ 県・市町村、関係機関・団体、企業等の刊行物（広報誌等）の活用
- オ 新聞、雑誌等への記事掲載の情報提供

### **(3)多様なメディアによる広報**

報道機関との連携及びSNSをはじめとした多様なメディアにより、迅速かつ効果的な広報活動の展開を図る。

- ア 新聞、ラジオ、テレビ等による広報活動の推進
- イ 県や市町村の広報番組、各種団体等の広報媒体の活用
- ウ ホームページやSNS等の活用
- エ 競技会場地市町村や競技の特性に合わせた広報媒体の活用
- オ 時代に即した広報媒体の活用

### **(4)イベントによる広報**

大会開催までの節目などにおいて啓発イベントを開催するとともに、各種イベントと連携した広報活動を実施する。

- ア 誰でも参加できるスポーツイベント及び大会啓発イベントの開催
- イ 県や市町村、各種団体等が主催するイベントにおけるPR活動等の連携及び実施
- ウ 出前講座を活用した広報

### **(5)屋外広告物による広報**

広告塔や横断幕等を設置し、来県者に歓迎の意を伝えるとともに、大会開催の広報に努める。

- ア のぼり、横断幕、懸垂幕の設置
- イ 広告塔、歓迎塔、広報看板、カウントダウンボード、歓迎アーチ等の設置

### **(6)映像による広報**

県民総参加による参加意識の高揚を図るため、映像を活用した広報を実施する。

- ア 先催県の大会映像等（DVD等）の貸出
- イ 広報用映像（DVD等）の制作、貸出、ホームページ上等での公開
- ウ 前回国体（やまびこ国体）の記録映像の貸出

### **(7)記録映像等の制作**

大会までの道のりや成果を永く記録にとどめ、県民の財産として未来へ継承するため、記録映像等を制作する。

- ア 大会記録映像（DVD等）の制作
- イ 大会記録写真集の制作

### **(8)参加章等の作成**

大会の開催を記念し、大会参加章や記念章を作成する。

- ア 参加章、記念章の作成
- イ 記念グッズ等の作成

## **(9) その他広報**

その他、「第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会広報基本方針」に基づき、効果的な広報を実施する。

## **4 活動展開の考え方**

### **(1) わかりやすい広報**

各種ツールの作成やメディアの活用にあたっては、見る側や聞く側など、受け手に配慮した誰にでも伝わる、わかりやすい広報に努める。

### **(2) 媒体の特性に応じた広報**

それぞれの広報媒体の強みを活かした広報に努める。

### **(3) 状況に応じた広報**

発信する手法や時間、場所、タイミングに配慮した最も効果的な広報に努める。

### **(4) 様々な主体との連携、協働**

県民総参加でつくる大会に向け、大会の広報については、みんなで取り組み、みんなで支え合うものとして、様々な主体との連携・協働のもとに展開する。

### **(5) 大会後につながる広報**

県民一人ひとりが長野県の良さを再認識し、郷土の誇りをととして未来につなげるとともに、大会後も多くの方々が長野県を訪れていただけるよう、多彩な魅力の発信に努める。

### **(6) 受け手の声を反映する広報**

広報活動を実施する際に、アンケート等の広聴の要素も含めた活動を心がけ、受け手の声を今後の広報活動や大会運営に活かすよう努める。

## **5 広報基本計画の進行管理**

広報基本計画については、取組の進捗状況等を「広報・県民運動専門委員会」において毎年検証するとともに、必要に応じて、県準備委員会の常任委員会の議決を経て変更する。

## 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 マスコットキャラクター（案）

### 1 制定目的

第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会（以下「大会」という。）を象徴し、広く県民に愛されるようなマスコットキャラクターを制定し、大会開催の機運を高める。

### 2 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会マスコットキャラクター

今後、開催 5 年前に内定になった後、所要の手続きを経て、公式マスコットキャラクターとなる。

『アルクマ』



#### 【国体・全障スポにおける「アルクマ」の活用の仕方】

- 大会のマスコットキャラクターであることを表すデザインとするため、炬火トーチをマスコットキャラクターの手に持たせたり、ユニフォームを着用させる等の大会仕様デザインを作成。
- 各競技等に対応する展開型のデザインを必要に応じて作成。

### 3 選定理由

- (1) 長野県 PR キャラクターとして、県広報をはじめ、様々なイベント等で活躍しており、その実績を基に、着ぐるみ(2020 年現在の稼働数 9 体)や既存のイラスト等を活用でき、着ぐるみやご当地バージョン等のデザインは、大会後も活用できる。
- (2) 「ゆるキャラグランプリ 2019in しあわせ信州 NAGANO」でグランプリを獲得したことにより、その全国的な知名度を生かすことができる。(2020 年を最後にゆるキャラグランプリは終了)
- (3) 2017 年に長野県で開催された「第 72 回国民体育大会冬季大会（ながの銀嶺国体）」において、マスコットキャラクターに採用され、冬季スポーツの魅力および国体開催を全国に発信した実績があり、その設定を活かし、バージョンアップさせ、県内外へ発信することができる。
- (4) 長野県の既存キャラクターの中で、老若男女問わず一番認知度が高く、大会マスコットキャラクターと役割が重複している。
- (5) 新規採用のデメリットに比べ、既存採用のデメリットについては、大会仕様の新しいコスチュームの作製、任命式等のイベントにより、新鮮なイメージや話題を提供でき、工夫次第でカバーすることが可能である。



# 參考資料

## ○長野県PRキャラクター「アルクマ」プロフィール

- ・信州に出没する、大変珍しいクマ。
- ・クマなのに寒がりで、いつも頭にかぶりもの。
- ・クマなのに旅好きで、いつも背中にリュックサック。
- ・信州をクマなく歩きまわり、信州の魅力を世の中にクマなく広めるのが生きがい。



出身	信州・日本アルプスのどこか
短所	寒がり
性別	?
趣味	信州旅行、かぶりもの収集
年齢	?
特技	信州のお国自慢
身長	リンゴの木半分くらい
体重	リンゴ70個分くらい
好き	山、りんご、そば
苦手	海、もずく
長所	行動的なこと
座右の銘	未知を歩こう。信州

### 概要

- 2009年8月 JRグループ信州デスティネーションキャンペーンのキャラクターとして誕生
- 2010年12月 長野県観光PRキャラクターに任命
- 2014年9月 長野県PRキャラクターに昇進
- 2019年8月 生誕10周年を迎える
- 2019年11月 「ゆるキャラグランプリ2019 inしあわせ信州NAGANO」においてグランプリを獲得

### 「ゆるキャラグランプリ」過去の成績

2012年（第2回）	総合	24位/865体
2013年（第3回）	総合	28位/1,580体
2014年（第4回）	総合	45位/1,699体
2015年（第5回）	総合	106位/1,727体
2016年（第6回）	総合	123位/1,421体
2017年（第7回）	ご当地部門	27位/681体
2018年（第8回）	ご当地部門	17位/507体
2019年（第9回）	ご当地部門	1位/427体

